



NST NEWS

今回は法人全体で見直しを行った経管栄養について
改めて復習してみようと思います。その前に少し活動報告を...

H29.4.21
第44号

2015年、2016年 NST活動実績

項目	2015年度	2016年度
NST回診依頼件数	13	9
NST回診実施件数	53	37
改善あった症例	8	5
改善なかった症例	11	3
NST NEWS発行	40~42号	43号
勉強会開催	8回	4回
勉強会参加者	209名	98名
栄養カンファレンス実施件数	160件	128件
うち褥瘡ある患者	47件	34件

毎年、活動報告会でお知らせしていた内容ですが、2015年、2016年度分は諸事情により紙面による報告になっています。また、症例報告会など開催できればと考えています。



※NST回診は患者様により継続回数が変わります。改善の有無も期間内に終了した患者をカウントするので依頼件数などとは合致しません。

当院の経管栄養 ～リスクに合わせた選択～

2016年12月より、法人内で経管栄養食品を統一しました。メーカーと種類をある程度絞りました。メリットは主に ①法人内での患者様の移動時に同じものが使用できる ②管理しやすい ③価格交渉しやすい などがあげられます。今後も定期的に検討会議を行い、内容の改善に取り組む予定です。当院はほとんど統一該当品を使用していたので変更事項は半固形のメイフローRHPが加わったことのみです。

ところで、当院の経管栄養管理の患者様は現在90名程おられますが、その中であがってくる問題は主に

- ①下痢
 - ②逆流による嘔吐、誤嚥
- です。

高齢の患者様が多くて
嚥下・消化能力も弱っている
ので問題も多いみたい。



では、問題別に考えられる対策をまとめてみましょう。

①下痢

原因	対策案
投与速度が速すぎる	クレンメで速度調整
投与容量が多すぎる	少ない量から始めてみる
	容量の少ない濃厚タイプを選択
腸内環境が悪い	乳酸菌含有のもの使用
乳糖不耐症である	乳糖を含まないものを選択
液体が合わない	半固形のものを選択
浸透圧が高すぎる	浸透圧の低いものを選択
成分が合わない	脂肪、食物繊維などについて検討
腸の働きが弱っている	消化態のものを選択

②逆流による嘔吐，誤嚥

原因	対策案
投与速度が速すぎる	クレンメで速度調整
投与容量が多すぎる	少ない量から始めてみる
	容量の少ない濃厚タイプを選択
液体が合わない	半固形のものを選択
腸の働きが弱っている	消化態のものを選択

《当院の下痢，逆流対策用 経管栄養食品》

特徴	該当食品	経鼻	胃瘻	容量	水分 ml/ 100kcal	脂質 g/ 100kcal	食物 繊維 g/100kcal	乳糖	粘度 mPa・s	浸透圧 mOsm/L
濃厚タイプ 1ml=2.0kcal 400kcal 摂取するのに通常 のものなら 400mlの容量 になるところ、メイバランス 2.0 なら 200mlになる。	メイバランス 2.0 	○	○	小	34.8	3.3	1.0	含	50	600
半固形栄養食品	メイフローRHP 	△	○	大	125	2.8	1.5	含	400	400kcal 237 300kcal 223
	F2ライト 	△	○	大	110	2.2	1.6	含	4000	—
	PGソフトA 	×	○	大	110	2.2	1.4	含	20000	←逆流のリスクが高い 場合は粘度の高いもの を使用
消化態栄養食品 通常のは半消化態だが消化態のものは少しの消化でよい	ペプタメン 	○	○	小	51	4	0	無	7	520
	ペプチーノ 	○	○	中	85	0	0	含	6	470
乳酸菌含む	YHフローレ 	○	○	中	84	2.8	1.8	含	70	800
通常は経口用	メイバランスミニ (コーヒー味) 	○	○	小	47	2.8	1.3	無	—	460

